

4-3

施設方針の具現化

BSC 手法を用いて

BSC

考え抜く

社会福祉法人賛育会 特別養護老人ホーム 第二清風園

| | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 職種・発表者 事務員 松本 貴宏 | 共同研究者 服部克彦 石田悟 佐々木優佳 松本貴子 |
| 所在地 東京都町田市薬師台 3-270-1 | 共同研究者 遠藤優子 木下真理子 宮重千雅 |
| TEL : 042-736-6906 | E-mail : seifu2@san-ikukai.or.jp |
| FAX : 042-736-6903 | URL : |

| | |
|--------------------------------|--|
| 今回の発表の施設 またはサービスの 概要 10p | 社会福祉法人賛育会の特別養護老人ホームとして、1997年4月町田市の支援のもと設立。特別養護老人ホーム80名、短期入所施設50名、在宅サービスセンター50名、地域包括支援センター、居宅介護支援事業の高齢者総合福祉施設である。 |
|--------------------------------|--|

| | |
|--|--|
| <p>〈取り組んだ課題〉</p> <p>今までは施設目標や事業計画を策定する際は、トップダウンでの策定中心であり、なかなか職員一人ひとりまでは伝わっておらず、『なぜそのような目標を立てないといけないのか、何でこのような仕事をしなければならないのか』という思いが職員間にあった。</p> <p>〈具体的な取り組み〉</p> <p>2006年度から管理職を含む中核となる職員が外部研修に出向き手法を学んだ。</p> <p>2007年度は東京都の「特別養護老人ホームの先駆的な取り組み」に対する補助金を受け、日本大学の高橋教授の指導を受けて2008年度の BSC 作成に取りかかった。</p> <ol style="list-style-type: none">① 全職員対象の研修を年間4回行った。② その後、経営層と事業別（特養・ショート・デイ・包括居宅）に分かれ、作業会を行い、SWOT 分析から始めアクションプランまで作成した。③ それと関連づけながら、各部署、各委員会の年度目標・計画を作成した。 | <p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">・医療においてはすでに導入されている病院もあったが、福祉施設で初めてBSCを導入したこと。・施設の『強み』『弱み』という主観的な分析だけでなく、『機会』『脅威』といった客観的な外的要因から分析できたことにより、施設の方向性が見えたこと。・計画や目標策定の過程が理解されたことにより、職員一人ひとりが『なぜやらなければいけない目標なのか』を理解できたこと。・部署の違う職員が混ざり合い、長時間、施設方針について、『考え抜く』という作業を行ったことで日常の業務では味わえない連帯感が生まれ、他者理解を深めることができたこと。 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">・事業所ごとに BSC を作成したが、実際の実働部隊である各部署・各委員会がどれだけそこに関連づけて年度計画を立てられているかどうかの検証が不十分であった為、アクションプランの中には具体的にどこがそれを実施するのか明確になっていない項目も存在している。・アクションプランの規模や数がまちまちのため、単年度で達成できる内容のものと実現が難しいものが混在している。 <p>⇒紙面上のプランで終わってしまう可能性あり。</p> <p>*上半期のアクションプランの達成度を各部署・各委員会で確認することで今年度の BSC 作成過程の課題を明確にしていき、来年度の BSC 作りの参考とする材料とする。</p> |
|--|--|

【メモ欄】